若手研究者による教養講座

文化・芸術 ビギナーズラボ

週末の夜に
ワンコインで受講できる
教養講座を開講します。
今回は分野の異なる
3人の若手研究者が
「江戸時代の日本文化」を
テーマにお話しします。
この機会に新しい
知識の扉を開きましょう。

2023年 ①10月 20日（金）
②11月 18日（土） ③12月 9日（土）
各回 19：00 ～ 20：00 ※18：30～ 受付開始

会場　東リ いたみホール（伊丹市立文化会館）
3階大会議室

受付　9月7日（木）9:00 ～
- 東リ いたみホール窓口
- 電話 TEL 072-778-8788
- メール itamihall@itami-cs.or.jp
  件名に「ビギナーズラボ申込」、
  本文に「氏名」「電話番号」「受講希望日」を
  明記の上、お送りください。

料金　各回 500円
※1講座からお申込みいただけます。

定員　各回 36名
※定員に達した場合、
当日の参加受付は致しません。
※未就学児の入場不可。

第1回 10.20（金）

日本酒の味を読み解く
―文学作品の表現をめぐって―

［講師］ 大関 綾
大谷大学 文学部 助教

現在でも使われる、日本酒の甘い、辛いという表現。江戸時代の文学作品中にも「飲み手」側の記述としても多く記されています。そもそも、その表現が意図する「味」はどのようなものだったのでしょうか。お酒を飲む人たちが記した、さまざまな文学作品の記述を追いながら、日本酒の味がどのように表現されていたのかを読み解いていきましょう。

第2回 11.18（土）

浮世絵から見る 歌舞伎の世界

［講師］ 戸塚 史織
日本学術振興会特別研究員・立命館大学大学院 文学研究科 博士後期課程

400年以上の歴史を持つ歌舞伎の特徴の一つは、ユニークな演出にあります。役者の豪華な衣装やメイク、特殊な舞台装置や「型」と呼ばれる演技のパターン。これらの魅力的な演出は、長い歴史の中で常に新たな観客に感動を与えるために改良され、進化してきました。そんな歌舞伎の演出を知る手がかりとなるのが、役者絵です。これは歌舞伎役者の姿を描いた浮世絵のージャンルで、浮世絵の半分以上は役者絵であったともされています。当時の人々が愛した役者絵を手がかりに、目にも楽しい歌舞伎の世界を共に読み解いてみましょう。

第3回 12.9（土）

花結びを紐解く
―誰がどのように伝えてきたか―

［講師］ 矢島 由佳
大阪大学大学院　文学研究科　博士後期課程

花結びは、よく平安時代の上流階級の女性の教養、また日本の伝統文化の一つとして紹介され、現在でもカルチャースクールで花結びの結び方を知ることはできます。しかし、花結びの歴史や技能の伝承過程については、あまり知られていません。一体誰がどのように現代まで花結びを伝えてきたのでしょうか？本講座で、江戸時代から現代までの史料を読み解き、実際に花結びを手にして眺めながら、花結びの伝承について一緒に考えてみましょう。

お問合せ

東リ いたみホール
（伊丹市立文化会館）

〒664-0895
伊丹市宮ノ前1-1-3
TEL 072 - 778 - 8788
（9：00 ～ 21：30）
※電話番号をお間違えの
ないよう、ご注意ください。

休館：火曜（祝日の場合は翌平日）
https://itami-cs.or.jp/itamihall/

主催：公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団、伊丹市